

真庭市埋蔵文化財調査報告 4

大旦遺跡発掘調査報告

市道多田金屋線改良工事に伴う発掘調査

2010

真庭市教育委員会

例 言

- 1 本書は、市道多田金屋線改良事業に伴い、真庭市建設部建設課の依頼を受け真庭市教育委員会が発掘調査を実施した、真庭市台金屋に所在する大旦遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、平成21年度（4～5月）に坂田 崇が担当して実施した。調査面積は434㎡である。
- 3 本書の執筆・編集は坂田が行った。
- 4 出土遺物・図面・写真等は、真庭市教育委員会（真庭市落合垂水1901-5）にて保管している。

凡 例

- 1 本書で用いた高度は海拔高であり、方位は真北である。
- 2 第2図は国土地理院発行の1/25,000地形図の横部・美作宮原・勝山・久世を使用し加筆したものである。
- 3 本書に掲載した遺構・遺物実測図の縮尺率は下記により統一している。

遺 構 土壙：1/40

遺 物 土器：1/4

目 次

序	
例言・凡例	
目 次	
第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の経緯と経過	4
第1節 調査の契機と経緯	4
第2節 発掘調査の経過	5
第3章 発掘調査の概要	6
第1節 遺跡の概要	6
第2節 遺構・遺物	7
第4章 まとめ	9
図版	
報告書抄録	
奥付	

図 目 次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第3図 調査区位置図 (1/1,000)	4
第4図 遺構配置図 (1/200)	6
第5図 土壌1 (1/40)・出土遺物 (1/4)	7
第6図 土壌2 (1/40)・出土遺物 (1/4)	7
第7図 土壌3 (1/40)・出土遺物 (1/4)	7
第8図 土壌4 (1/40)	7
第9図 土壌5 (1/40)・出土遺物 (1/4)	8
第10図 土壌6 (1/40)	8

図 版 目 次

図版1	1 調査区全景 (北西から)
	2 土壌1 (北から)
	3 土壌2 (北西から)
図版2	1 土壌3 (南西から)
	2 土壌4 (北から)
	3 土壌5 (北西から)
図版3	1 土壌6 (北西から)
	2 出土遺物

第1章 地理的・歴史的環境

真庭市は岡山県北部の旧美作国西部に相当し、東は津山市・鏡野町・美咲町、西は新見市・新庄村、南は高梁市・吉備中央町、北は鳥取県とそれぞれ境を接している。面積は828.43km²と目下のところ県下市町村中最大であるが、面積の大半は山林が占めている。

大旦遺跡の所在する真庭市台金屋地区は真庭市域の南半部東部にあたり、岡山県の中央部を南流する旭川の上流域に位置している。旭川は久世の市街地で流路を東から南に大きく蛇行するが、これは北から南に延びる河岸段丘が突き出しているためである。この段丘の東には旭川の支流である目木川が市街地の東端で本流の旭川と合流している。この旭川と目木川の合流によって形成された沖積平野は久世地区における最も大きな平坦地形であり、現在主要な集落はこの平野に立地している。

大旦遺跡はこの旭川と目木川によって形成された沖積平野を南に望む標高約180m（沖積平野との比高差約40m）の低丘陵上に位置し、市内でも屈指の大規模な集落遺跡であるとみられる。

縄文時代

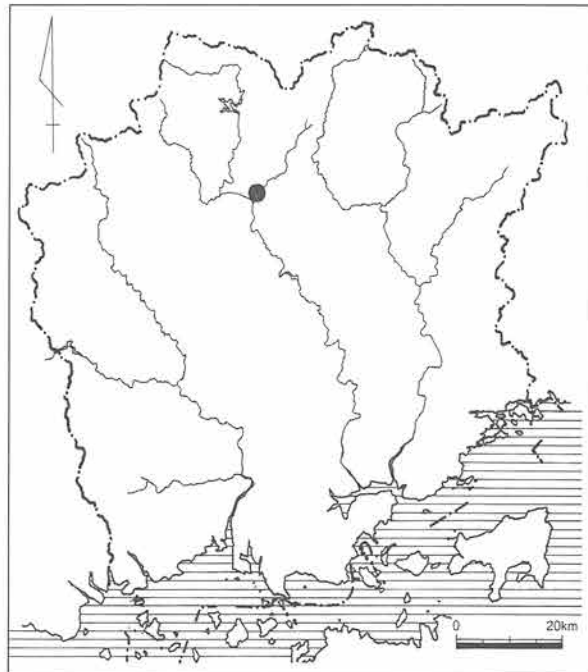
久世地域において現在まで知られている最古の遺物は縄文時代早期の押型文土器で、この大旦遺跡¹⁾のほか上野遺跡²⁾、薬王寺西山遺跡³⁾、長光寺山遺跡⁴⁾などで発見されている。上野遺跡では前期の土器も採集されている。中期では目木川上流の江森遺跡⁵⁾（余野上遺跡）が知られるのみである。後期では上野遺跡、三坂川流域の三栄神社裏山遺跡⁶⁾、小谷川流域の宮芝遺跡⁷⁾、晩期では五反遺跡⁸⁾で鉢形土器が出土しているほか、旦山遺跡と惣台遺跡⁹⁾から落とし穴遺構が検出されている。いずれの場合も河川を見下ろす丘陵上に複合して認められることが多い。

弥生時代

弥生時代になると、五反遺跡で前期後葉の土器が出土しているのみで、集落遺跡が飛躍的に増加するのは中期後葉から後期前葉にかけてである。主要な遺跡としては、目木川流域では旦山遺跡、惣台遺跡、野辺張遺跡¹⁰⁾、木谷遺跡¹¹⁾、上野遺跡などがあり、目木川と旭川に挟まれた地域では五反遺跡、大旦遺跡、宮芝遺跡などがある。しかしながら比較的大規模な弥生時代の集落跡が展開しているにもかかわらず、弥生時代の墳墓については現在まで知られていない。

古墳時代

古墳時代に入ると数多くの古墳が各水系を見下ろす丘陵上に築造されるようになる。前方後円墳としては小規模ではあるが、惣古墳群のアタゴ山5号墳と堂ノ旦1号墳が知られている。5世紀の中葉には古墳の築造が活発となり、中原古墳群¹²⁾のように低平な墳丘の方墳・円墳が丘陵尾根上に



第1図 遺跡位置図



- | | | | |
|------------|---------------|--------------|------------|
| 1 大旦遺跡 | 16 木谷古墳群・木谷遺跡 | 31 丸山古墳群 | 46 羽庭6～8号墳 |
| 2 五反遺跡 | 17 イガ平1号墳 | 32 上の段遺跡 | 47 池河内遺跡 |
| 3 五反廃寺 | 18 アタゴ山古墳 | 33 アタゴ山古墳群 | 48 茶白山城跡 |
| 4 五反1号墳 | 19 宮ノ帆1～3号墳 | 34 鍋屋遺跡 | 49 三坂1～4号墳 |
| 5 長光寺1～6号墳 | 20 旦山1～5号墳 | 35 稻荷神社裏山遺跡 | 50 郷庄尻遺跡 |
| 6 蛇ノ尾1～3号墳 | 21 旦山遺跡 | 36 多田1～11号墳 | 51 野田遺跡 |
| 7 新池1～6号墳 | 22 野辺張遺跡 | 37 平ノ上遺跡 | 52 東坊子遺跡 |
| 8 細シ遺跡 | 23 先旦山遺跡 | 38 池河内遺跡 | 53 野田1・2号墳 |
| 9 多田須遺跡 | 24 樋ヶ鼻遺跡 | 39 真光寺前古墳 | 54 小谷1～4号墳 |
| 10 西口遺跡 | 25 惣台遺跡 | 40 上ヶ市遺跡 | 55 羽庭1～5号墳 |
| 11 金屋1～4号墳 | 26 三崎1～8号墳 | 41 宮芝遺跡 | |
| 12 目木埋没条里 | 27 篠向城跡 | 42 小谷古墳群 | |
| 13 戸坂遺跡 | 28 篠向1号墳 | 43 小谷遺跡 | |
| 14 上ノ山遺跡 | 29 富尾埋没条里 | 44 羽庭14～18号墳 | |
| 15 引屋敷遺跡 | 30 井ノ上遺跡 | 45 羽庭城跡 | |

第2図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

多く築かれるようになる。後期には各所に群集墳が形成されるようになる。特徴的な成果のあった調査例としては、装飾付脚付子持壺やトンボ玉などの多彩な遺物が出土した木谷古墳群 11 号墳が挙げられる。集落跡としては、前期では大旦遺跡¹³⁾で住居跡等を検出しているのが現在のところ唯一の事例である。なお、後期の集落跡は惣台遺跡や先旦山遺跡¹⁴⁾でこれまでに確認されている。

古代以降

白鳳時代には五反廢寺¹⁵⁾が造営される。五反廢寺は大庭臣により造営されたと考えられ、美作国の最西端に所在する古代寺院跡である。周囲からは軒丸瓦、軒平瓦、鴟尾が出土しており、軒丸瓦は現在のところ7種類、軒平瓦は6種類が確認されている。なかでも内区に木の実状の文様、菊花状の文様を配置した瓦当文様は県内では類例を見ないものである。寺域は1町四方の説が今日では有力である。

一方、吉備五郡に白猪屯倉を置いたと記している『日本書紀』や『続日本紀』などから旧大庭郡内に白猪屯倉が設置されていた、という説もあるが定かではない。また、大旦遺跡から東へ約1km隔てたところには、10数点の墨書土器、陶製円面硯および獣足壺の脚部が出土し、大庭郡衙跡に比定されている西口遺跡¹⁶⁾が所在している。その他、古代の耕地割制度といわれる条里が久世地区でも4ヶ所で確認されているが、目木の条里¹⁷⁾は中世に区画された耕地割の可能性が指摘されている。

註

- 1) 「大旦遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』57 岡山県教育委員会 1984
「大旦遺跡発掘調査報告」『真庭市埋蔵文化財調査報告』2 真庭市教育委員会 2009
- 2) 「上野遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』91 岡山県教育委員会 1994
- 3) 松本和男・船津昭雄「第2章 久世の夜明け」『久世町史』久世町 1975
4～8) 註3に同じ。
- 9) 「旦山遺跡・惣台遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』136 岡山県教育委員会 1999
- 10) 「野辺張遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』136 岡山県教育委員会 1999
- 11) 「木谷古墳群」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』93 岡山県教育委員会 1995
- 12) 「中原古墳群」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』93 岡山県教育委員会 1995
- 13) 「大旦遺跡発掘調査報告」『真庭市埋蔵文化財調査報告』2 真庭市教育委員会 2009
- 14) 「先旦山遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』136 岡山県教育委員会 1999
- 15) 「五反廢寺」『久世町埋蔵文化財発掘調査報告』2 久世町教育委員会 1997
「五反廢寺」『久世町埋蔵文化財発掘調査報告』4 久世町教育委員会 2000
- 16) 註3に同じ。
- 17) 『目木条里発掘調査報告書』久世町教育委員会 1982

第2章 調査の経緯と経過

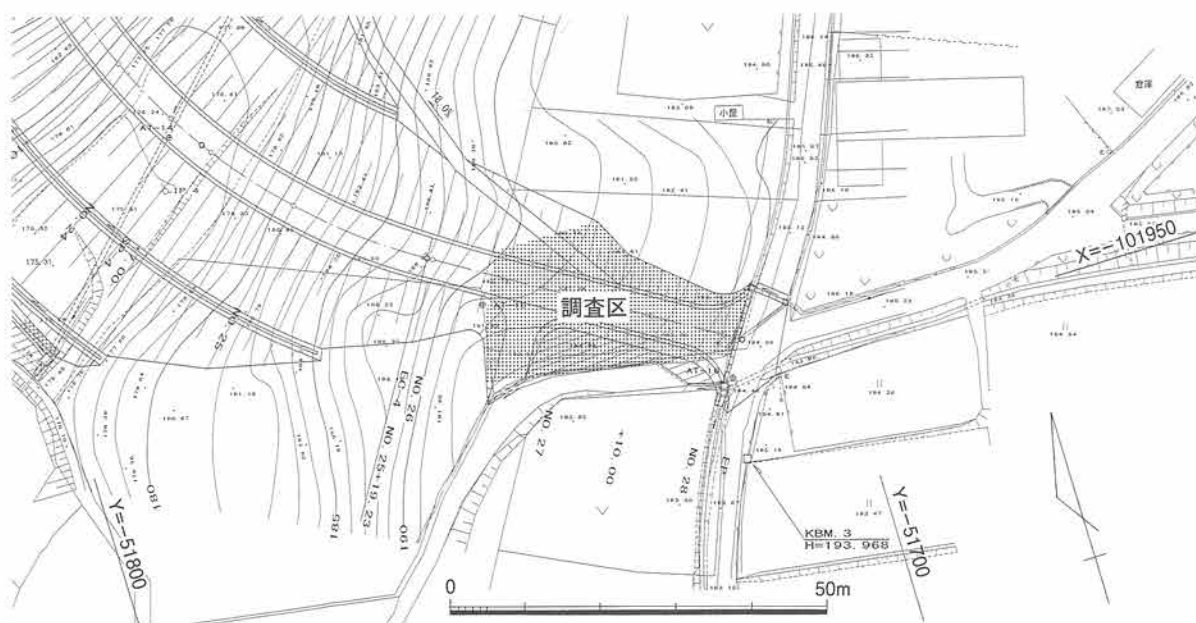
第1節 調査の契機と経緯

旭川と目木川の合流によって形成された沖積平野は久世地区における最も大きな平坦地形であり、真庭市のなかでも主要な集落遺跡はこの平野に立地している。大旦遺跡はそのひとつである。

大旦遺跡の所在が知られることとなったのは、昭和29（1954）年に耕地整理を兼ねて瓦製作用の粘土を採掘していたところ弥生時代の貯蔵穴が検出され、緊急の調査が行われたことを契機とする。このときには9基の貯蔵穴が検出・確認され、その個所は昭和38（1963）年に久世町（現真庭市）指定史跡に指定されている。

昭和56（1981）年には台金屋地区一帯で「農村総合整備モデル圃場事業」を実施する計画が立ち上がり、それを受け、岡山県教育委員会による確認調査が昭和58（1983）から翌年にかけて実施されることとなった。その結果、縄文時代早期から古代にかけての遺構・遺物を多数検出・出土しており、時代・面積ともに大変広範囲な集落遺跡であることが判明した。近年では、市道上連線改良事業に伴う発掘調査を平成18年度に実施している。

平成19（2007）年、真庭市教育委員会は真庭市建設部建設課より市道多田金屋線改良事業の実施にあたっての埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて協議を受けた。包蔵地の現状保護・保存を前提に協議を重ねた結果、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することで合意をした。真庭市建設課より埋蔵文化財発掘の通知を平成19（2007）年12月4日付け、真建設第184号で提出され、これを受けて真庭市教育委員会で発掘調査を実施することとなった。



第3図 調査区位置図 (1/1,000)

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は平成 21(2009)年 4 月 13 日から 4 月 30 日まで、実働日数 9 日間を要して実施した。なお、埋蔵文化財発掘調査の報告については平成 21 年(2009) 4 月 21 日付け、真教生第 29 号で岡山県教育委員会へ提出している。

調査方法としては、当初より調査対象範囲の全面的表土を除去し、遺構の検出を行っていった。調査区が西方向へ下がる傾斜面であることから、表土が地表から遺構検出面まで相当な厚さで堆積していることが予測されたため、表土除去については重機を使用した。

(調査の体制)

調査主体者	真庭市教育委員会
事務局	真庭市教育委員会
	教育長 大倉 貢
	教育次長 大植昭一
	生涯学習課長 内山恵美子
	参事 池上 博
調査担当者	主査 坂田 崇



作業員 池田 功、奥田 章、黒瀬 肇、為本和男
永田敏宏、二宗久夫、村松正治 (50 音順)

調査参加者

第3章 発掘調査の概要

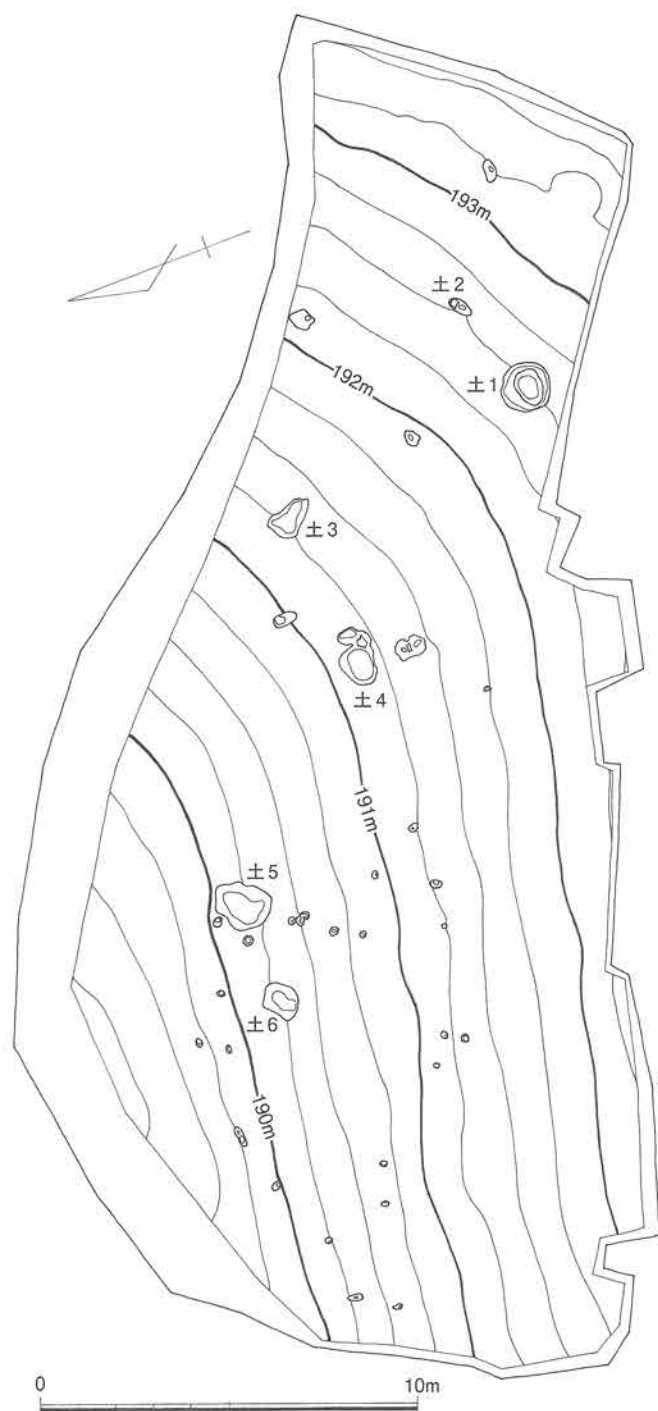
第1節 遺跡の概要

今回発掘調査の対象となった区域は、周知の埋蔵文化財包蔵地として認識されている大旦遺跡の範囲の北西部境界付近にあたる。調査面積は434㎡である。

調査対象となった区域は、台金屋地区の集落のうちでも北のはずれに相当する。調査前の現況は松の植林であった。標高的には遺構検出面で概ね190～193mの範囲になる。

調査区は西方向の谷への傾斜面であり、全面の表土を除去してみたところ、現地表よりも傾斜が著しいことが判明した。そのため当初より住居跡等の遺構が遺存する可能性は低く、遺物が斜面に堆積する包含層のみ遺存するものと想定していた。

精査の結果、遺構としては6基の土壇を中心としピット類を検出、遺物としては弥生時代後期の土器片を出土している。

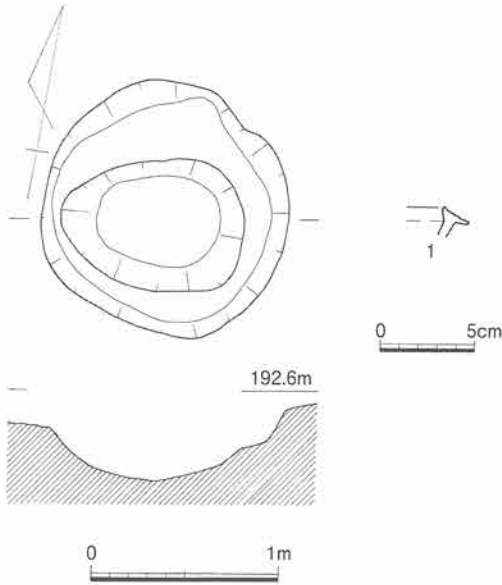


第4図 遺構配置図 (1/200)

第2節 遺構・遺物

土壙1 (第4・5図、図版1・3)

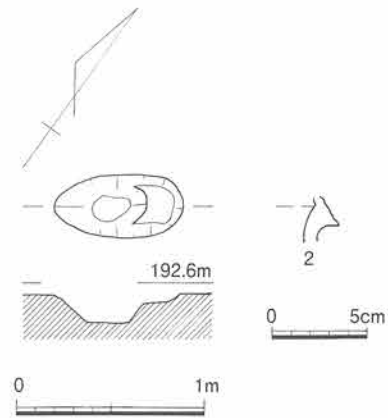
調査区東側の南壁際付近に位置し、標高的には土壙2とともに最上位となる。長さ138cm、幅133cm、深さ37cmを測る。平面は不整な円形で、2段に掘られている。遺物としては甕の口縁部片1の他、若干の弥生後期の土器片を出土している。



第5図 土壙1 (1/40)・出土遺物 (1/4)

土壙2 (第4・6図、図版1・3)

土壙1の東側に隣接して位置する。長さ69cm、幅

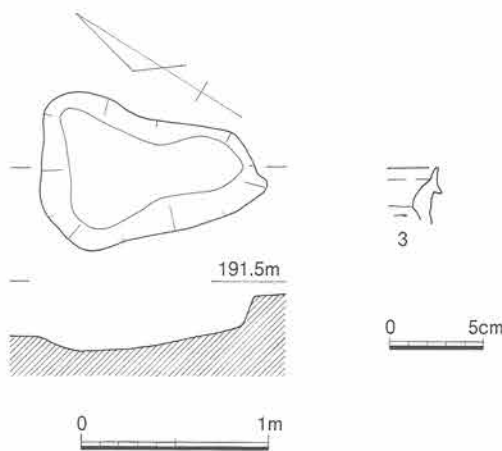


第6図 土壙2 (1/40)・出土遺物 (1/4)

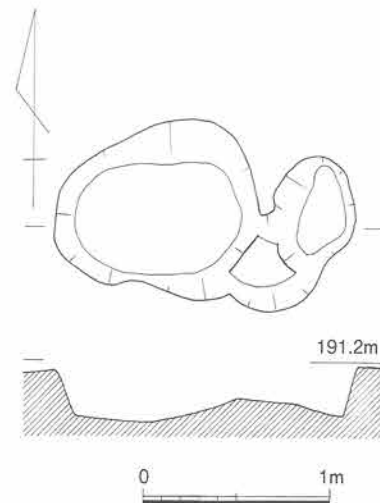
33cm、深さ16cmを測る、楕円形の土壙である。東半部が2段掘りとなっている。遺物は弥生後期の壺口縁部片2が1点のみ出土している。

土壙3 (第4・7図、図版2・3)

調査区のほぼ中位、北壁付近に位置する。長さ120cm、



第7図 土壙3 (1/40)・出土遺物 (1/4)



第8図 土壙4 (1/40)

幅83cm、深さ30cmを測る、不整な方形の土壙である。遺物としては甕の口縁部3をはじめとする若干の弥生後期土器片を出土している。

土壙4 (第4・8図、図版2)

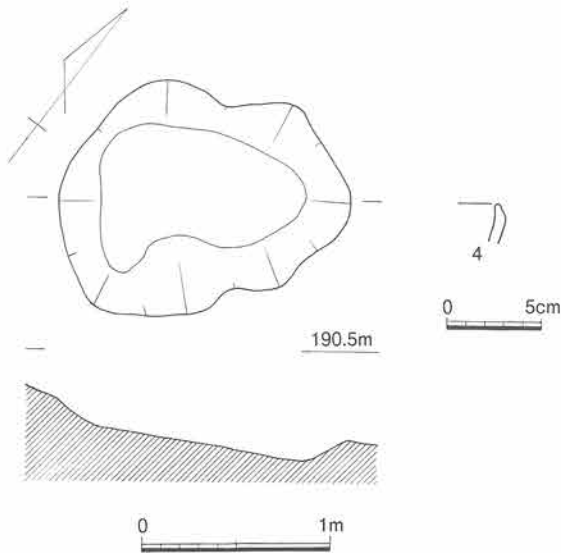
調査区のほぼ中央に位置する。長さ158cm、幅95cm、深さ29cmを測り、不整な楕円形を呈する本体の東側に小土壙が連結した形態である。図示できる遺物はないが、弥生後期の土器片を若干出土している。

土壙5 (第4・9図、図版2・3)

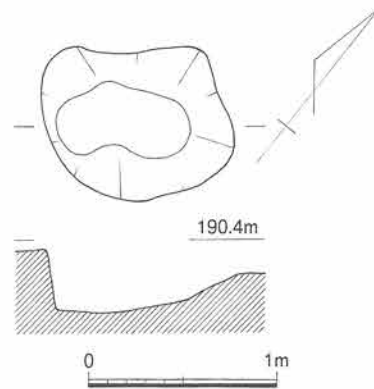
調査区の最下位に位置する。長さ154cm、幅125cm、深さ10cmを測る、不整な楕円形の土壙である。4をはじめとする弥生後期の土器片を出土している。

土壙6 (第4・10図、図版3)

土壙5と並び、調査区の最下位に位置する。長さ108cm、幅80cm、深さ35cmを測る、不整な方形土壙である。図示できる遺物はないが、弥生後期の土器片を若干出土している。



第9図 土壙5 (1/40)・出土遺物 (1/4)



第10図 土壙6 (1/40)

第4章 まとめ

今回の調査結果について、以下に若干まとめる。

検出遺構について

今回調査対象となった区域は、周知の埋蔵文化財包蔵地としての大旦遺跡の範囲としては縁辺に相当し、また現状の地形的にも西方向に深い谷を臨む斜面であることから、住居跡といった集落遺跡の中心となる遺構の存在する可能性は低いものと当初より想定していた。調査の結果、遺構として6基の土壙とその他ピット類を検出している。土壙についてはいずれも検出面から底面までが浅く、平面形も不整なものばかりである。覆土に比較的新しいものとみられる植物の腐食が混在していたことや、出土した土器片も細片ばかりであること、また調査区域において桧の植林が行われていたことなどから、弥生時代の包含層に後世の植林等による樹根が侵食して生じた痕跡である可能性も考える必要がある。

出土遺物について

遺物としては弥生土器片を出土している。この大旦遺跡で主として包含層を形成している黒褐色土（黒ボク土）層からはごくわずかしか出土しておらず、このことから付近の平坦地にも密度の高い集落跡が存在する可能性は低いものと想定される。出土遺物で主体となるのは土壙から出土した土器片である。器種としては壺や甕といったものであるが、細片ばかりであり詳細な時期比定は困難である。これら出土遺物から、付近に小規模ながらも集落が弥生時代後期に営まれていたことが考えられる。



1 調査区全景
(北西から)



2 土壌 1
(北から)



3 土壌 2
(北西から)

図版 2



1 土壌 3
(南西から)



2 土壌 4
(北から)



3 土壌 5
(北西から)



1 土壇 6
(北西から)



1



2



3



4

2 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおだんいせきはくつちょうさほうこく							
書名	大旦遺跡発掘調査報告							
副書名	市道多田金屋線改良工事に伴う発掘調査							
巻次	—							
シリーズ名	真庭市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	4							
編著者名	坂田 崇							
編集・発行機関	真庭市教育委員会							
所在地	〒719-3194 岡山県真庭市落合垂水 1901 番地 5 TEL 0867-52-3730							
発行年月日	2010(平成 22)年 3 月 26 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおだん 大旦遺跡	おかやまけん 岡山県 まにわし 真庭市 だいごん 台金谷	33214	旧久世町 191	35° 07' 97"	133° 76' 62"	20090413 ～ 20090430	434 m ²	市道多田金屋線改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大旦遺跡	集落	弥生時代 (後 期)	土壇	弥生土器				

真庭市埋蔵文化財調査報告4

大旦遺跡発掘調査報告

市道多田金屋線改良工事
に伴う発掘調査

平成 22 年 3 月 18 日 印刷
平成 22 年 3 月 26 日 発行

編集・発行 真庭市教育委員会
岡山県真庭市落合垂水 1901-5

印刷 有限会社 勝山印刷

